

私は、1981年に北海道開発局に入局以来、主に港湾関係事業に従事してきました。

生まれ育ちが帯広だったこともあり、海を訪れることもあまりなかった私ですが、採用されて初めての現場が広尾町の十勝港でした。先輩に連れられ、十勝港の第1線防波堤である「南防波堤」の先端に行ったときには驚きました。その場所は陸から遙か1.5kmも沖にあり、防波堤の幅はテニスコートがすっぽり収まるくらいのもので、港のことを何も知らなかった私は「波から港を守るにはこんなに大きいコンクリートの塊が必要なのか！」と驚き、また、防波堤から見える岸壁群の長大さから港の広さを実感し、そのスケールの大きさに圧倒されたことを今でも覚えています。

今般、公共事業の調達においては、その品質確保が強く求められております。私は行政に携わる者として、工事・業務の発注にあたっては、民間企業の方や国民の信頼を得て品質確保に答えることがこれから重要だと考え、これが技術士を受験するきっかけとなりました。

合格までは私の実力不足により時間がかかりましたが、先輩技術士の皆様からの暖かい励ましや手厚いご指導により無事に取得することができ、本当に感謝しております。

合格までは私の実力不足により時間がかかりましたが、先輩技術士の皆様からの暖かい励ましや手厚いご指導により無事に取得することができ、本当に感謝しております。

今後は、仕事を進める上で起こる技術的諸課題に対して、また、建設生産システム全体の生産性向上のため本格的に始まった「ICTの全面的な活用」の関係する技術に対しても柔軟に対応できるように、私自身の技術力向上を図るとともに、職場の部下や後輩達への技術指導に努め、我々の組織全体の技術力向上に貢献していきたいと考えております。

## 田川 人士(たがわ ひとし)

●建設部門(港湾及び空港)

### 勤務先

北海道開発局 港湾空港部  
港湾建設課



→次号は、石黒一郎さん(建設部門)

就職を機に北海道へ来てから早や11年が経ちました。こちらで暮らそうと思ったきっかけは、自転車で北海道横断ツアーをしたときに見た大雪山系や屈斜路湖、摩周湖の美しい景色でした。

生まれは仙台、大学時代は山形で過ごし、岩石の放射年代学に関する研究をする傍ら、登山やクライミングに没頭していました。本州や海外にある岩、雪、氷さまざまなものに登ってきましたが、

自然の中で思い切り体を動かすことは、この上なく贅沢で楽しい時間でした。現在はクライミングをしていますが、業務でロープアクセス技術を用いた落石調査や橋梁点検等を行っています。近頃「スポーツクライミング」がオリンピック正式種目に採用され、当時から考えられないほどレベルが向上してありますが、屋内ジム通いのクライマーの方々には、ぜひ自然の中で登る楽しみを味わって頂きたいです。

さて、前々号までは諸先輩方が「薄毛」について思慮深いコメントをされましたが、私にお声が掛かったもののご縁と一言。高校・大学時代のクライミングや自転車、就職後の現場仕事では長時間の「ヘルメット生活」を強いられ、厳しい環境にあったことに間違いはないですが、周囲には同様の条件でも豊富な方が大勢います。そこで思う薄毛の原因は「遺伝」です。先輩のご指摘にあるように薄毛の遺伝子は優性だそうで、自身の血縁を辿ってみても頷けます。薄毛はご先祖様からの授かりものと安心していただるところですが、巷の保育園では「この、ハゲっ！」(某代議士のご発言)と叫ぶのが大流行とのこと。幼稚園に通う長女の口から、いつこのミサイルが飛んでくると戦々恐々とする今日この頃です。

技術的な話題から逸れましたが、これまで培ってきたロープアクセス技術を生かし、本業の地質分野のみならず道路防災やインフラ維持管理の分野でも広く貢献できるよう日々研鑽して参ります。

## 新妻 重明(にいつま しげあき)

●応用理学部門(地質)

### 勤務先

株式会社 開発工営社  
共通事業本部地質部



→次号は、山岸 央さん(建設部門)